

目 次

I	研究テーマ設定の理由 .....	51
II	研究仮説 .....	51
III	研究内容 .....	51
	1 読書に対する考え方 .....	51
	(1) 読書することとは .....	51
	(2) 子どもにとっての読書 .....	52
	2 読書指導 .....	52
	(1) 読書指導の意義 .....	52
	(2) 国語科における読書指導 .....	52
	3 読書記録 .....	53
	(1) 「読むこと」と「書くこと」 .....	53
	(2) 読書記録の教育的意義 .....	53
	(3) 読書・記録に関するアンケートから .....	54
	(4) 読書記録の方法 .....	55
	(5) 読書記録の指導 .....	56
IV	授業実践 .....	59
	1 単元・教材名 .....	59
	2 単元設定理由 .....	59
	(1) 教材観 .....	59
	(2) 児童観 .....	59
	(3) 指導観 .....	59
	3 単元の指導目標 .....	59
	4 単元の指導計画（省略） .....	59
	5 実践例 .....	59
	6 授業の考察 .....	61
V	研究の成果と課題 .....	62

## 読書意欲を高める指導の工夫

— 読書記録を通して —

佐敷町立佐敷小学校教諭 玉那霸 明 美

### I 研究テーマ設定の理由

子ども達をとりまく現状として、「ゆとりのない生活」「社会性の不足」「ゆがんだ倫理観」「自立の遅れ」など、さまざまな問題が生じている。物が豊かで、めまぐるしく変化する現代社会において、「心」が置き去りにされているともいえる。そうした中、子ども達に必要とされているのが感動する心や相手を思いやる心・自律心といった豊かな人間性を培うにふさわしい教育の実現である。読書指導は豊かな人間形成に役立つ自己教育の方法として、きわめて優れている。良い本との出会いは、素晴らしい感動を与える、その感動は子どもの心を満たしてくれる。また、作者の創り出した世界に共感することで人生の真実を見出し、自己の認識を変え新しい自分を創り出していく糧ともなる。

このような考え方から、これまでに児童への読書の奨励、絵本・昔話の読み聞かせをする機会を多く取り入れてきた。その結果、読書に興味のない子や話し言葉は理解できるが書き言葉になじめない子どもも耳から本になじんでいくようになった。しかし、絵本やお話に興味を持たせるだけで自ら楽しんで読もうとする主体的な態度や、自己を見つめ直し、自己を変えていくような創造的な読みを促すまでには至らなかった。また、知的好奇心を搖さぶるような読み物への広がりにもつなげられなかった。それは、児童の読書の実態をつかめていなかったこと、国語科においては読むことの知識・技能の習得が中心で、作品そのものの価値にふれる豊かな読みに結びつけられなかったことに原因がある。また読書指導においても物語中心で学年の発達段階に応じた読書の広がりや、読むための環境作りが十分になされていなかったこと、にも理由があると考えられる。

読書を通して豊かな感性を育て、自己を高めていくには、自ら読もうとする主体的な態度を培うことが大切である。そのためには、「読み」を巨視的にとらえ、作品そのものの良さを味わいながら楽しく読ませることであると考える。そこで、「読む」活動のなかに「書く」活動を取り入れたい。ちょっとした書き込みやメモを取るだけでも読みは深まるものである。また、記録することで、より客観的で正確な読みがなされることがある。自分の感想や意見・批評などを書き留めておいた作品には愛着と親近感があり、さらに、書いた記録をもとに仲間と読みの交流ができる。つまり、「書く」ことによって、読みを振り返り・深めそして、お互いを比べ・認め合うことができる。そうすることで、作品そのものの価値に、より深く触れ、より楽しく読み味わうことができると思われる。

以上のことから、読書指導のなかに読書記録を計画的に取り入れることで、読みがより深く、楽しくなり読書意欲を高めることにつながると考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説

読書指導に読書記録を計画的に取り入れることによって、自ら読む楽しさを見つけることができ、読書意欲が高まるであろう。

### III 研究内容

#### 1. 読書に対する考え方

##### (1) 読書することとは

現代は映像化時代といってよい。テレビの普及は読み書きの時間を奪い、映像や音楽は文化の中心にまで食い込んできている。コミックや雑誌が流行するのは映像化時代の典型的な現象といえる。そういう中にあって、一つ一つの文字記号を追い、それを言葉としてとらえイメージ化する作業は現代の子どもにとって、わずらわしく面倒なことかもしれない。また、親や教師がどんなに口を酸っぱく

して本を読めといっても落ち着いて読める環境ともいえない。そのような社会の狭間にあって読書が押しつぶされてしまっているように思われる。しかし、書かれた文や文章の意味を探し当てるには読者一人ひとりの自主的で創造的な作業であり、書かれた字ずらの裏から何を読みとり、何を見つけるか読者自身のみができるものである。読書行為それ自体が自主性をもち、受け身の映像では得られない思考の展開や感動を得ることができる。そのような読書体験を積むことで思考力や創造力、判断力を育むことになるといわれる。読書が自己の成長に不可欠な営みであるといわれるゆえんである。

## (2) 子どもにとっての読書

「読書は子どもの暮らしの一部になってこそ子どもに益をもたらす。本を読むことを、技術の上達や知識の習得をめざす課題や成績通知表の点数と同列に考えてはならない。」といわれるように、子どもにとっての読書とは、眠ったり、食べたりするのと同じように正常で不可欠な日常生活の営みの一つであるといわれている。

子どもにとって読書とは、どのような意味をもつかその特性をまとめてみた。

### ※子どもの読書の特性

ア 子どもは経験の有無・多少によって読みにかなりの違いがでてくる。子どもの経験の場は遊びである。本をより楽しく深く読むためには、できるだけ自由に遊ばせ、より豊かな体験をさせることが大切である。

イ 子どもは、子どもの目・子どもの倫理で読む。子どもの持つ生物本能的なエネルギーが要求するものや社会・家庭・文化などへの反抗、反発、心の開放を求めて読む。従って、大人のすすめる本が必ずしも子どもにとってよい本とはいえない。

ウ 書物によって得た代行経験（感動）が、子どもの実際の行為のなかにあらわれ、人格の一部となる体験（身に読む）がある。

以上のような、子どもの読書の特性から、読書が子どもの成長に与えるものは大きい。従って「適書を適者へ適時に」と与えることが大切であると考える。

## 2 読書指導

### (1) 読書指導の意義

教育の基本的な目的は、「理想的な人間像の形成」をめざしている（教育基本法第1条）。

読書指導も教育活動の一つである以上、その目的は理想的な人間の形成にある。望ましい人間像の形成にとって不可欠なものは、思考力や創造力の育成であり、それは豊かな生活体験や日々の営みの中で蓄積される。読書はその営みの一つであるから、わたしたちは読書指導によって子どもたちに確かな読書力と読書の習慣を身に付けさせ、生活を高めていかなければならない。読書指導は、生涯にわたる自己学習力の根底となるものである。

### (2) 国語科における読書指導

#### ① 読書指導の目標

国語教育は、学校教育の根幹であるとされている。中でも読書能力の育成は、教育の基礎であり基本である。読むことなくしては、知識の理解も半減するのである。

国語科における読書指導は、「望ましい読書心」・「目的に応じた読書能力」・「好ましい読書習慣の育成」といった“読書”への基本的な素地を培うことを目的とし、日常の読書への基礎的・基本的な導入ととらえることができる。

##### （価値目標）

- ・ 読書によって広く深い知識を持ち、豊かな心情を培い人格の形成に資することができること。

##### （能力目標）

- ・ 読書の技能・態度面での基本的能力を身につけ、読書生活の向上をめざすこと。

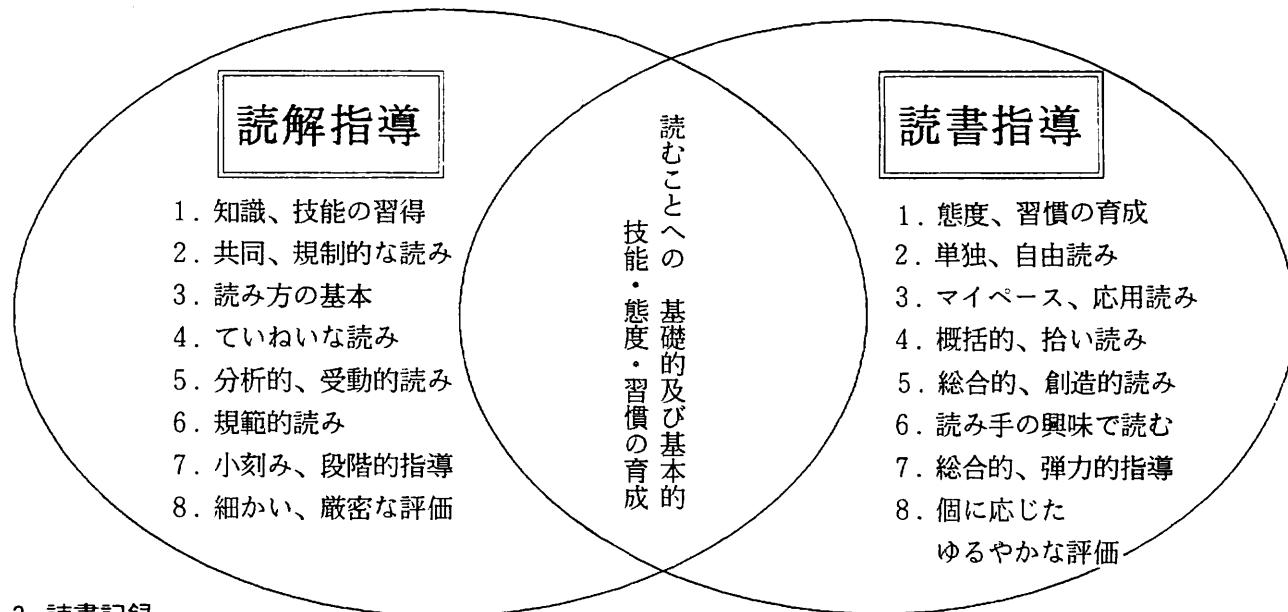
### 各学年の読書の指導目標

1年	やさしい読み物を楽しんで読もうとする態度を育てる。
2年	やさしい読み物を進んで読もうとする態度を育てる。
3年	いろいろな読み物を読もうとする態度を育てる。
4年	読書の範囲を広げ読書量を増やすようにする。
5年	読書を通して知識を増やし、心情を豊かにする。
6年	適切な読み物を選んで読む習慣をつける。

### ② 「読解指導」と「読書指導」

読書が十全になされるためには、確かな読書力が必要とされる。そのためには、国語科の中で言葉や文、文章を読みとる読解の技能を身につけるのが、読書活動の第一歩である。また、身につけた読解技能は、読書活動に生かされてはじめて生きて働くものとなる。読解指導と読書指導は車の両輪のように助け合い、関連しあって読書活動を育っていく。

「読解指導」と「読書指導」の相違点と関連性（「新版国語実践全集」吉川雅夫の説による）



### 3 読書記録

#### (1) 「読むこと」と「書くこと」

“読むことは考えることである”といわれる。より正しく読み、深く考えるためには、読みの中に書くことを取り入れるとよいと考える。書くことによって、より一層本の持つ本質を正確に把握することができる。作者の体験を追体験することから発展して自分の体験や考えを推進力として読みをすすめるため、心で読み、体で読むことになり作品の内奥まで立ち入ることができる。つまり、書くことによって読みが深化し作品の良さ、すばらしさを見つけることができる。また、書くことは、思考を伸ばし広げる。読んでは考え、考えては書く、こんなことの繰り返しが個人の思考を深みのあるものにし、練り上げていく。

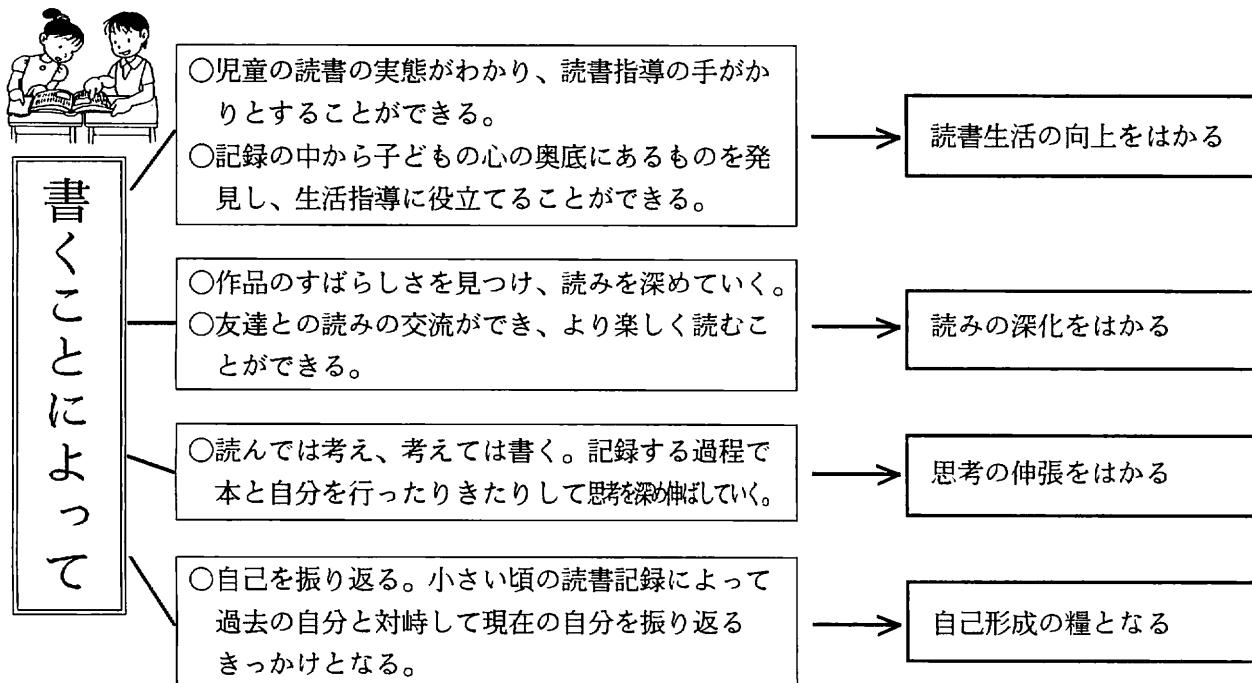
発達心理学的見地からいって、小学校中学年では、ことに読むことと書くことの相互の関係が深まるといわれている。また、低学年の場合は、書くことより話すことで自己を表現し、思考をのばしていくことが多いといわれている。従って、音声もしくは描画による読書記録も効果的であると考える。

#### (2) 読書記録の教育的意義

読書記録を取ることによって読後の感動が薄れたり、記録を取ることが義務づけられたりすると、かえって読書へのブレーキとなるようなことになるのではないか、という声も聞く。しかし、読書指導をもっと本質的にとらえてみた場合、読書記録は読みの過程で生きて働くものであり、より高度な

読みへとすすめるため、自ら読む楽しさを見つけるための大切な手立てであると思われる。

読書記録の教育的意義を以下のようにまとめた。

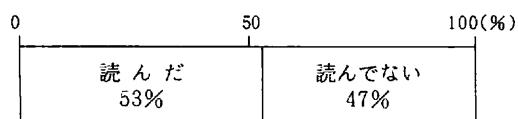


### (3) 読書・記録に関するアンケートから

① あなたまどんな本が好きですか。



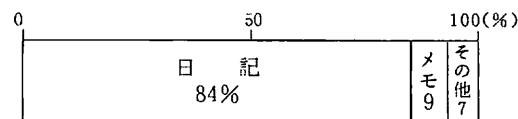
② 友達からすすめられた本を読んだことがありますか。



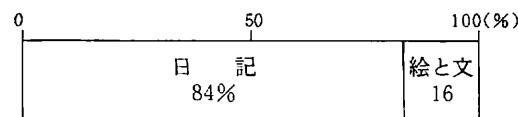
③ 読んだ本の感想やあらすじを書いて残したことがありますか。



・感想やあらすじを何に書きましたか。



・どんは方法で書きましたか。



#### 《質問①について》

子どもたちの好きな本は物語本で45%を示している。物語本に次いで好きな本が、動物や虫などの自然の本（科学的読み物の本）で20%である。しかし、実際読まれている本を見ると、そのほとんどが物語本で、科学的読み物の本は好きな割りにはほとんど読まれていない。図書館で友達同志、図鑑や恐竜・虫の本を囲んでいるのを見かけるが、それだけで終わってしまい科学的読み物の本を一冊手にとってじっくり読むことが少ないよう思われる。

3年生の読書指導のねらいは、読みの領域を広げる段階にある。科学的読み物の本をはじめいろいろなジャンルの本を読ませる指導の工夫が必要だと感ずる。

#### 《質問②について》

すすめられた本を読んだ子が53%いる。本の内容や種類についてはどのようなものか詳しくつかめないが読みを交流し広げるきっかけになるものとして、大事にしたい。

#### 《質問③について》

読後の記録についての質問である。書いたことのある子が46%いる。その内容は日記のなかに読んだ本のあらすじや感想を自由に書く程度のものである。また表現の方法についても文のみで書いている子が大半である。しかし、読後の感動を形や内容にとらわれず心のままに書いた経験なので、記録を書く意欲につながるものと考える。継続して楽しく書かせるために、記録の意義や価値について話し合い、表現の方法やカードの工夫をする必要性を感じる。

#### (4) 読書記録の方法

読書は、読み手の興味や目的に応じて自由に行われるものであり、領域によって、その読書の型（心豊かに読む読書・知る喜びを味わう読書）を決められるものではないが、記録の特性をとらえるために、領域別に分けて記録の方法をまとめた。

##### ① 読書領域に応じた読書記録の表現方法

領域	文学作品・物語（心豊かに読む読書）	科学的読み物(知る喜びを味わう読書)
表現方法	(1)あらすじを書く (2)抜き書き 好きな言葉 好きな文章 (3)感想文 (4)読書日記 (5)本の紹介 (6)その他 「読書すごろく」 「読書クイズ」「ことばの宝石かるた」 つづき話 劇化 手紙 (5)読書日記 (6)本の紹介 手紙	(1)内容を写す (抜き書き・視写・書き写し) (2)要約する (箇条書き・図式化) (3)複数の資料をまとめる (資料の出所を明記) (4)批評、感想を加えながら書く

##### ② 学年の発達段階に応じた読書記録の表現方法

領域	文学作品 物語 (娯楽的読書)	科学的読み物 (機能的読書)
ね記 ら録 いの	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の読書歴を残す。</li> <li>友達への本の紹介</li> <li>自分の中の読みを確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に沿って検索し、収集</li> <li>整理記録し保存・活用する。</li> </ul>
低学年		
中学生		
高学生		

(5) 読書記録の指導

① 国語科読書単元との関わり

年 い ろ い な 読 み 物 を 読 も う と す る 感 度 を 育 て る	7月	本は友だち 「エルマー、とらに会う」 ルースニスタイルス＝ガネット作 【発展読書への配慮】 ★ 読書カードによる作品紹介 ○ 発展読書へのつなげ方 ・エルマーシリーズを読む ・テーマ読書「冒険」物を読む ★ 本の紹介カードに書く ・空想や冒険もの (空想や冒険物に興味を示す時期である) ★ 本の帯を作ろう 12月 自然のふしき 「虫のゆりかご」 岡島秀治著 【発展読書への配慮】 ○ 調べ読みの指導 (知りたい欲求を行動に移す) ○ 図書資料の活用 (収集、選択、活用の初步的段階の指導) ★ 調べたことをカードに書く 友だちに紹介したり、自分の資料として活用する。 ★ 本の紹介(カードに書く) 科学的読み物を読む楽しみが広がる。
	4	好きな本を記録して心に残す
	5	読書カードをもとに読書すろくを作る
	6	本の紹介カードを書く(物語本)
	7	読書記録によって1学期の読書を振り返る ・本の帯作り
	8	いろいろな本を読んで調べたことを記録しよう
	9	読書計画を立てる ・読書感想文、感想画につながる読書記録の取り方 読書メモ④ しおり⑤
	10	読書感想文、感想画をかく
	11	読書カードによる本の紹介 ③
	12	図鑑や事典で調べた事柄を記録する。⑥ 科学的読み物を読んで記録カードを書く ⑦
	1	一年間の記録のまとめをしよ
	2	・読書カードの記入
	3	・記録カードの記入 ・1年間の読書を記録によって振り返る ⑨

(★記録カードとの関連)

①《読書歴カード》

- ・読んだ本を一年を通して記録していく。集団読書や読み聞かせしてもらった本も含む。これによって、年間の読書冊数や読書の傾向(読書グラフ)がわかる。

②《読書カード》

- ・物語文の記録カード。読書傾向として物語りが主である。読後に自分の好きな方法(ぬき書き、手紙あらすじ...)で自由に書かせる。友達との読書交流の資料になったり本の紹介をするときに役立つ。そして、何よりも自分の読書記録であり、書くことと読むことの相互作用で読みが深まり、読書を自己の成長に生かすことができる。

③《本の紹介カード》

- ・自分が読んだ本を友達に紹介するためのカードである。粗筋や絵でどんな本であるかを伝え、自分の感想やコマーシャルの言葉で紹介者の気持ちを伝える。

④⑤《読書メモ・しおり》

- ・本を読みながらある一つの事柄についてメモしていく方法(例えば、主人公の行動・気持ち、「木の育ち方など」) しおりは、本を読みながら自分の考えや意見を抜き書きなどをその都度挟んでいく。

⑥《調べたことを記録するカード》

- ・一つの事柄について百科事典や図録などから調べたことを記録するカードである。友達に紹介したり、自己作成の資料としても活用できる。

⑦《科学読み物の本を紹介するカード》

- ・書名、著者名、分類を記入し要点をまとめたり紹介文を書いたりする。はじめて知ったことや不思議に思ったことなど絵を入れて自由に書かせる。見出し(キャッチコピー)を書くと印象に残りやすい。

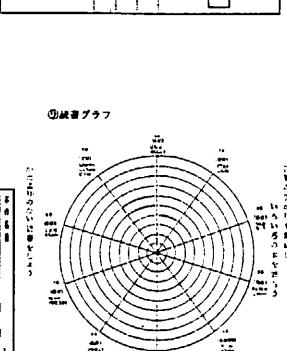
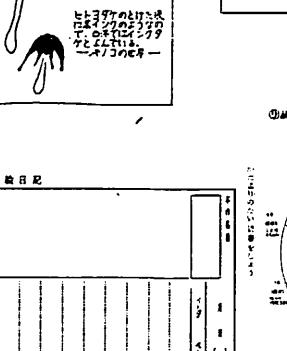
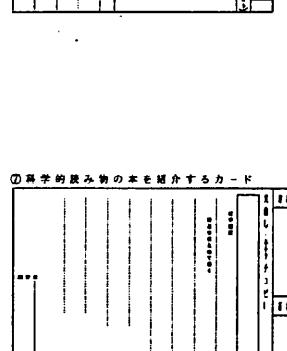
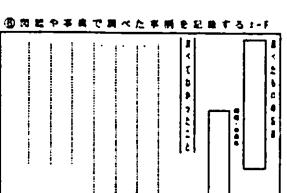
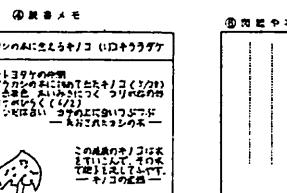
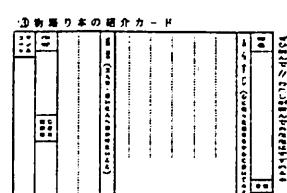
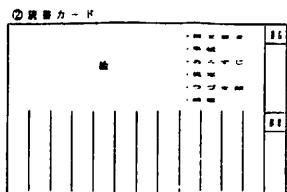
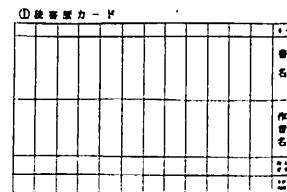
⑧《読書絵日記》

- ・時間的にゆとりのある夏休みに書かせたい。読書絵日記は、その日に読んだ部分のあらすじ、抜き書き、感想絵を書く。

(2) 読書記録の年間指導計画(3年)

月	目標	指導事項
4	好きな本を記録して心に残す	・読書歴カードの書き方を話し合う ① (何のために書くか)(どんなカードにする) 絵本の読み聞かせ 読書クイズ
5		・集団読書をして簡単な読書記録を書く ②
6		・読書カードをもとに読書すろくを作る
7	いろいろな本を読んで調べたことを記録しよう	・本の紹介カードを書く(物語本) ③ ・読書記録によって1学期の読書を振り返る ・本の帯作り
8		・自由読書(夏休みの読書計画に基づいて) 読書カード、読書絵日記の記入 ⑧
9		・読書計画を立てる ・読書感想文、感想画につながる読書記録の取り方 読書メモ④ しおり⑤
10		・読書感想文、感想画をかく
11		・読書カードによる本の紹介 ③
12	調べたことをしよ	・図鑑や事典で調べた事柄を記録する。⑥ ・科学的読み物を読んで記録カードを書く ⑦
1	一年間の記録のまとめをしよ	・読書カードの記入
2		・記録カードの記入
3		・1年間の読書を記録によって振り返る ⑨

読書記録



図書館利用 オリエンテ
読書すごろく遊び
読書グラフをかく⑨
図鑑・百科事典の使い方
読書記録のまとめ⑨

## IV 授業実践

### 1 単元・教材名

読書 「虫のゆりかご」 (光村図書 三下)

### 2 単元設定の理由

#### (1) 教材観

この教材は、オトシブミという小さな昆虫が卵を生むために木の葉のゆりかごを作るという興味深い生態を書いたものである。

児童は、ゆりかごを作る過程と様子を時間の経過に即して挿絵と文章を対応させながら読むことができ、わかりやすい内容である。また、ゆりかごを作る工程の複雑さや母虫の技能の精緻さは、児童に驚きと生命の神秘さを実感させる。

科学的な読み物に対する興味と関心を高めるとともに、科学的思考や科学的な追求の態度の育成に役立ついい教材である。

#### (2) 児童観

この期の児童は、昆虫や動植物など自然への関心が広がり、興味をもった事物に対して驚きと好奇の眼差しを向け、積極的に関わろうとする。また新しいものに対する知的好奇心も芽生え、科学的な読み物や図鑑・事典への興味を示す時期もある。

本学級の児童はアンケートの結果にあるとおり、科学的読み物の本も好きである。しかし、新しく得た知識や感動もその場限りで終わってしまい、読んだことを振り返ったり、友達に紹介するなどをして、読みを交流する活動はあまり見られない。

読みとった事柄を本当に自分のものにするためには、読んで得た情報をまとめ、自分なりの感想や意見なりを、自分の言葉で表現することが大切であると考える。そのためには、科学的読み物を読んで短くまとめて記録する方法や、絵や図を使って、説明する方法等について指導する必要があると思われる。

#### (3) 指導観

○ 読書教材としての特性を生かし、発展的読書への興味関心を育てるため、挿絵や口絵写真を充分に活用する。また、自由に読ませ、感想を交流しながら自然の神秘を感じ取らせるようにする。などの指導に加えて、読書記録との関連から、具体的に次のことを留意したい。

①読んだ後の記録する時間を設定する。

②記録のとり方を指導する。

③個々の良さを生かして楽しく読書記録が書けるように、記録カードを工夫する。

④読書の足跡として残せるようにする。

### 3 単元の指導目標

○ オトシブミが木の葉のゆりかごを作る過程や観察者の考えを、絵と文を関連させたり、短くまとめたりして、工夫して読むことができる。

○ 進んで科学的読み物を読み、簡単に記録を書くことで、科学的な読み物に対する興味関心を高めることができる。

[観点別指導目標]

<関心・意欲・態度>

・進んで科学的読み物を読もうとする。

・進んで読書記録を書こうとする。

<表現>

・読んで知ったことや感想を、工夫して書き留めることができる。

<理解>

・読んで知ったことを、知識として得ることができる。

#### 4 単元の指導計画 (省略)

#### 5 実践例

##### (1) 単元・教材名

読書 「虫のゆりかご」

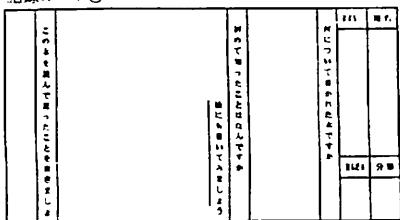
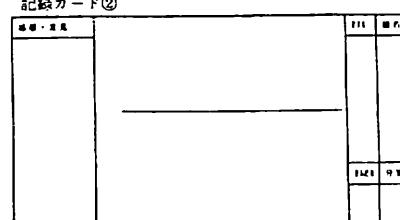
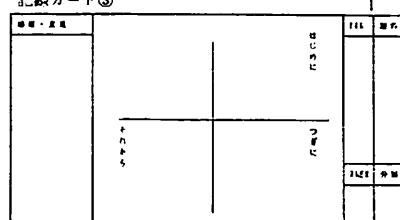
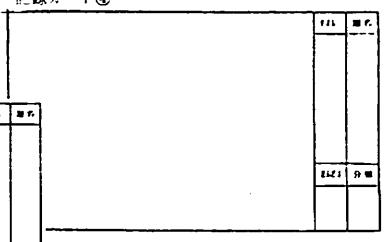
##### (2) 本時の指導目標

- ・読んで得たことを、短い文でわかりやすくまとめることができる。
- ・個々のよさを生かして楽しく読書記録を書く。

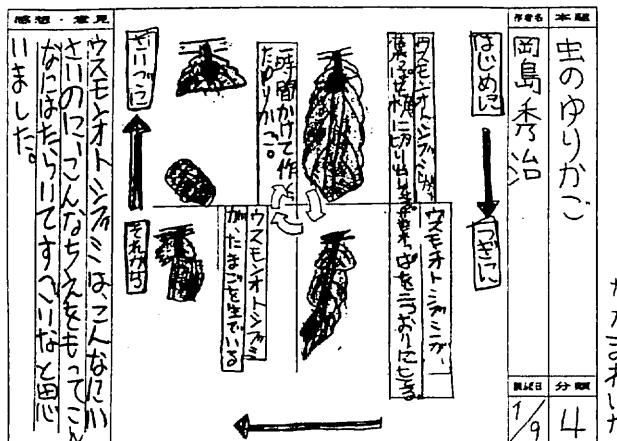
##### (3) 授業の仮説

- ・記録カードを工夫することで、楽しく読書記録を書く意欲がでてくるであろう。

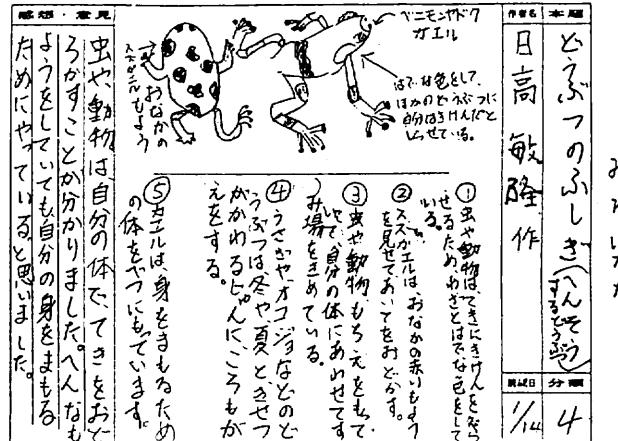
##### (4) 展開

時間	学習活動	教師の支援	評価基準
5分	<p>1 前時の復習をする。          ○読書記録の書き方について前時に学習したことを確認する。          (記録の観点)          •はじめてわかったこと          •不思議に思ったこと          考えたことなど          (記録の方法)          •抜き書き          •要約          •キャッチコピー          •図や絵</p> <p>2 科学的読み物の本を読んで読書記録を書く。</p>	<p>★読書記録の掲示資料や前時の児童の記録カードを掲示し、記録の仕方を確認する。</p> <p>★個々のよさを生かして自由な表現活動ができるように、4種類の記録カードを準備しておく。①②③④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•書けない子にはカード①をすすめる</li> <li>•カード②は絵と文</li> <li>•カード③は動物や昆虫の成長や事柄を順序よく簡単に要約する。</li> <li>•カード④は自由に書かせる。</li> </ul>	<p>{評価}          ◎内容をわかりやすくまとめ絵や文、感想などを入れて読書記録が書ける。          ○楽しく読書記録がかける。</p>
30分	<p>記録カード①</p>  <p>記録カード②</p>  <p>記録カード③</p>  <p>記録カード④</p> 		
10分	<p>3 発表する。          ○いろいろな記録のとり方に気付き、それぞれの違いやよさを認めあう。          4 記録カードを掲示する。</p>	<p>★3～4名発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•記録の内容や書き方がそれぞれ違う子に発表させる。</li> <li>•自分のものと比べて聞き発表者の記録のよさを見つける。</li> </ul> <p>★OHPに写し、記録の内容や表記の方法が見えるようにする。</p> <p>★発表や掲示することによって、今後の記録の参考になるようにしあいの認めあいの場とする。</p>	

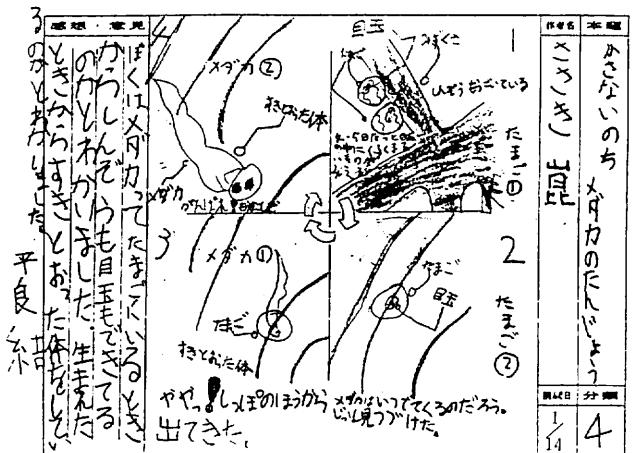
## 児童の記録カード



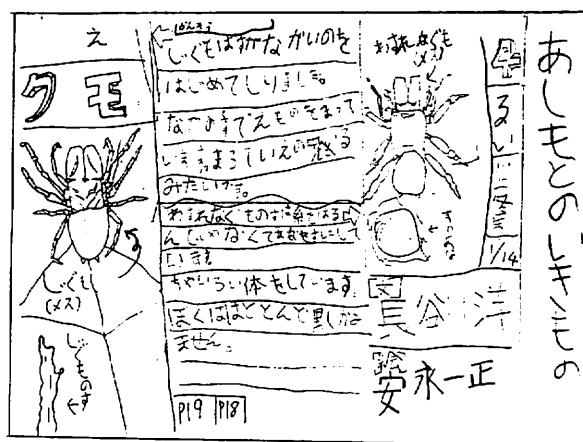
「虫のゆりかご」記録カード (6/8)



「動物のふしき・へんそう」  
を読んでの記録カード (本時)



「小さないのち・メダカのたんじょう」  
を読んでの記録カード (本時)



「あしもとのいきもの」  
を読んでの記録カード (本時)

## 6 授業の考察

- (1) 科学的読み物の選書にあたっては、推選図書の中から読みたい本を自由に選ばせた。そのため、どの子も無理なく最後まで読み通すことができた。
- (2) 付箋紙などにメモを取りながら読ませることで、書かれている内容を整理しながら読むことができ、記録カードの記入もメモをもとにスムーズにかけた。また、記録の観点や方法を提示資料で示すことで、何をどう書けばよいかがわかり、書くことに対する抵抗も少なかったように思われる。
- (3) 子どもの感想から、
 

「読書記録カードをたくさん書いて集め、一冊の本にして残しておきたい。」

「わかったことを絵や文で書いて楽しかった。」

「カードに書くと本に書いてあることがよくわかつってきた。」

など、楽しくかけたことや書くことで内容がはっきりしてきたこと、記録に残しておくためになるといった感想があって記録する意義やよさを子どもなりに理解できたようと思われる。
- (4) 4種類のカード (①リード文を付けたカード、②絵と要点を箇条書きでまとめるカード、③事柄の順序にそって書くカード、④自由に区分けして使えるカード) を提示した。その結果、  
②のカード……… 7名  
③のカード……… 12名  
④のカード……… 12名であった。それぞれのカードカードの特性を生かして自由に書くことができたのではないか。

## V 研究の成果と課題

### 《成果》

- ・読ませっ放し、聞かせっ放しの読書から抜け出し、子どもたちに自ら進んで楽しく読書をさせる手立てとして、読書記録を効果的に継続して楽しく書かせるための方法を自分なりに捉えることができた。
- ・読書記録年間計画を作成できたことで実践にいかせる資料ができた。
- ・学年の発達段階にあったさまざまな表現の方法がわかり、それをもとに記録カードを作成することができた。
- ・「読むこと」と「書くこと」の関連性を理論によって把握することができた。

### 《課題》

- ・年間計画にそった読書記録の指導を、子どもに無理なく継続して書かせるための時間のとり方や、書き方の指導の工夫を図る必要がある。
- ・書いた記録を子どもたちの読書生活にどう生かしていくか。
- ・「読書記録」と「読書意欲の高まり」の関連を実践の中で検証していくこと。

### 〈主な参考文献〉

水野寿美子	『読書記録の指導』	全国S L A	1982年
水野寿美子	『子どもの読書の周辺』	新日本出版社	1990年
竹井 成夫	『読まない子どもの読書指導』	国土社	1983年
石井 庄司編著	『実践国語教育大系』 第12巻	教育出版センター	1984年
橋本 暢夫編著	『新版国語実践指導全集』 第12巻	教育図書センター	1992年
代田 昇	『子どもの読書を見なおそう』	岩崎書店	1972年
藤井 宏	『情報化に対処する読書指導』	明治図書	1989年